

あり、その成果が期待される。

研究活動に関する情報と事務連絡などは、以下のホームページで参照することができる。

• Home page:

<http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/maruji/BUWECS/>

また、研究者間の連絡や討議に関するメールのために

は、次の e-mail アドレスが準備されている。

• Mailing list:

juuten@lmj.nagaokaut.ac.jp

方針の討議と研究発表のために年 2 回程度の全体会議が開かれる予定である。

• 次回発表会：1997年 1月27日から29日まで千葉大学。

====支部だより====

関西支部第18回夏季大学、受講者の好評を得て終了

関西支部第18回夏季大学は、初めて大阪市立科学館研修室を会場として、同館との共催の下、例年通りの諸機関の後援を得て、7月25日(木)、26日(金)の両日行われた。テーマは「[気象・気候の科学]-見る、聞く、世界の気象」とし、菊地時夫氏(高知大学)「インターネットに見る世界の気象」、大畑哲夫氏(滋賀県立大学)「雪氷圏の気候」、枝川尚資氏(奈良大学)「湿润熱帯アジアの気候」、佐橋謙氏(岡山大学)「シルクロードの気象」の4講を実施した。会場の収容人員の関係で募集人員は例年より少ない80名とし、昨年の参加者にダイレクトメールによる案内を出した他は、「気象」、「科学館ニュース」、「天気」の3媒体による案内のみとした。昨年まで行ってきたポスター作成による宣伝を取止めたにも拘らず、申込は早々と定員に達し、やむを得ず20余名の方々の受講希望に応じることが出来なかった。しかし、実際の受講者は64名で、欠席者がやや目立ったのは受け付け方法に関して今後の検討課題となった。

例年実施している参加者への感想のアンケートによると、講義内容は「適当」が圧倒的多数であったのは、テーマと講義の設定に携わった当事者として意を強く

したところである。特にシルクロードの気象の講義に好感を寄せた声が多かった。しかし、記載意見を精読すると厳しい内容も見られ、今後に生かすよう実行委員はじめ関西支部理事においてまとめが必要である。講義時間については市立科学館のプラネタリウム参観の便を考慮し午前は110分、午後は80分としたが、「適当」が大半であったものの「長い」も相当見られ、これも今後の検討課題となっている。なお、会場にはパソコン画面の大型投影設備が完備しており、「インターネットに見る世界の気象」はこれによって実施が可能となったものである。

今回は大阪教育大学及び大阪市立科学館の協力を得て、「水雲と氷晶雲をつくる実験」、「氷晶のレプリカ作りと観察」、「酸性雨をつくる実験」を行ない、好評を得た。成功の結びついた第1要因として、設備が整い、多くの面で配慮を頂ける施設を利用出来たことがあげられ、今後とも適切なテーマを得て継続するよう配慮したい。

講演及び展示実験に当られた各位に深謝の意を表す。

(関西支部)